

# 日本文化を見つめよう

## 身のまわりの物の紹介～日本語能力試験を受けて

竹野町立竹野中学校  
谷口 裕

国際理解教育という点で、まず考えてみなければならないことのひとつとして、自分たちの文化を理解するということがあげられる。その観点から「自国文化理解」の授業を3年生で2時間実践した。平成13年7月10日(火)から13日(金)の間に3年生2クラスでの実施である。

第1時では、普段あまり意識することのない身のまわりの日本文化を再確認することとした。第2時では、英語を母国語としない人々を対象とした「日本語能力試験」の問題に取り組むことにより、日本語を普段とは違った視点で捉え、自分の使っている日本語について振り返らせてみた。

### 第1時 「身のまわりの日本文化に目を向けよう」

#### 目 標

普段あまり意識することなく目にしたり、使ったりしている「昔から日本にある物」に目を向け、それらを自分の言葉で説明することにより、日本文化を再確認する。

### 第2時 「日本語を普段と違った視点で考えよう」

#### 目 標

日本語を外国語として学習している人々を対象とした検定試験である「日本語能力試験」の抜粋問題に取り組むことにより、これまでとは違った視点で日本語を捉え、自分の使っている日本語について振り返る。

### 第1時の流れ

まず、次の発問を投げかけ、生徒たちに自由に言わせてみた。

#### <発問>

「国際理解」という言葉からどんなことが頭に浮かんできますか。

・難しそう ・他の国とのふれあい ・外国のことを知る ・外国 ・アメリカ ・ホームステイ ・マスメディア ・英語 ・外国の人 ・小泉総理 ・田中真紀子 ・野口英世 ・イチロー ・ブッシュ大統領 ・フジモリ大統領

「外国」、「外国のことを知る」、「難しい」といった類の答えが多くあがった。国際的に活躍している、あるいは活躍した日本人、日系人が数人あがった。「日本人にはすごい人もいるね。」と付け加えておいた。

#### <発問>

外国のことや外国の人たちのことを知るのは大切なことです。では、日本のことを外国の人に知らせるといえるのはどうかな。

この発問をすると、次のような言葉がA君からあがった。

「先生、日本人は日本のことを知ろうとしなよ。」

そこで、「確かにみんなからあげられたものを見てみると、外国から何かを受け取るということが多いね。それも大切なことです。でも、自分の文化を外国の人に伝えることも大切だよ。このことについて今日は考えてみよう。」

< 指示 >

私たちが生活している身のまわりには「昔から日本にある物」がたくさんあります。それらをあげてみてください。

・ 座布団 ・ たたみ ・ 寿司 ・ 箸 ・ 扇子 ・ 習字道具

< 指示 >

みんなのところに外国の人がやって来たとします。彼、あるいは彼女はみんなの身のまわりにある「昔から日本にある物」について知りたがっています。それを誰にもわかる言葉で説明してください。日本語でしてください。

このように指示を出し、例としてこちらから「豆腐」の説明をクイズ形式に出してやった。

< 例示 >

日本に昔からある食べ物です。色は白で、形は立方体です。大きさは約10立方cmです。調理する時、それを小さく適度に切ります。それを冷やし、醤油につけて食べたり、みそ汁の中に入れて食べたりします。

生徒たちからは「豆腐」と元気よく答えが出た。あまりにも当たり前のものを、あえて細かく説明している点が新鮮に感じたらしく、興味を持って聞き入っていた。クイズのアンコールもかかった。

各個人のワークシートに、「身のまわりの昔から日本にある物」を2つを日本語で紹介する文を作らせた。以下、生徒たちが作った説明文である。

- ・ 食べ物を切るのに使います。引きながら切るのが正しいです。(包丁)
- ・ 朝ご飯の時よく食べるスープです。具には豆腐や野菜を使います。家庭によって味が違います。(みそ汁)
- ・ 夏祭りなどで着ます。旅館にもおいてあります。着物と似ているけど違います。かわいいです。(浴衣)
- ・ 大きな建物です。かつて偉い人が住んでいました。世界遺産になった物もあります。それは姫路にあります。(城)
- ・ 大豆を腐らせたものです。混ぜれば混ぜるほどねばねばとします。よくご飯にかけて食べます。独自のにおいがあります。(納豆)
- ・ この起こりは弥生や縄文にまでさかのぼります。偶然、わらで作られた袋の中に豆を入れておくと、発酵してそれになったと言われています。(納豆)
- ・ 日本の武道の1つです。「竹刀」と呼ばれる剣を使って1対1で勝負をします。ルールは異なりますが、フェンシングに似ています。服装は「袴」と呼ばれる特別なものを着ます。防御をほどこすため、「面」、「胴」、「小手」をつけます。(剣道)
- ・ 日本の古い衣装です。何となくサリーに似ています。1枚の布でできていて、腹の部分を「帯」と呼ばれる布でとめます。現在も正月などの特別の日に着ます。(着物)
- ・ 大晦日や引っ越しの時によく食べます。手作りもあります。出石が有名です。冷たいのも温かいのもあります。灰色で、細長いものです。(そば)

できたものをクイズ形式で一人ずつ発表させ、それが何であるのかを当てさせた。

生徒たちにとっては大変簡単で、すぐに答えがわかるのであるが、普段あまりにも意識しないものを具体的に述べている点が面白いようで、興味深く仲間の説明に耳を傾けていた。

## 生徒たちの感想

- ・ 昔から日本にある物ってすぐに見つからなかった。それだけ僕たちは日本の文化に目を向けていないと思った。
- ・ 昔から日本にある物はたくさんあるけど、それを外国人に教えるのは難しい。
- ・ おもしろい授業だった。特に後半の「身のまわりの昔から日本にある物」を説明するのが難しかったけど、おもしろかった。
- ・ 私は「国際理解」と聞いて、すぐに「外国を理解すること」だと思った。でも、自分の国を理解することも国際理解につながるんだな、と思った。外国のことを理解する前に、自分の国のことについていろいろと考えてみようと思う。
- ・ 「昔から日本のある物は」言われると、「何かあるかな」と思った。名前を聞いてみて「そうだ」と思う物が多くあった。私はちょっとくらい日本のことを知っているつもりだったけど、こうやってみると日本文化のことをあまり知ってなかつた。
- ・ 「国際理解」というと政治のこととか、かた苦しい感じがする。でも、自分の文化を知ったり教えたりするのも国際理解なんだ。自分の国のことなのに全然知らなくて、ちょっとびっくり。自分では知っていると思ったのにちょっとがっかりした。これから少しずつでも知っていきたい。
- ・ 昔から日本にある物は、これからも残しておくべきだと思った。

## 第2時の流れ

前時に「身のまわりの日本文化」について考えさせた。今回は普段意識することなく使っている「日本語」について考えさせた。まず、取りかかりとして、外国語として学習している英語を振り替えさせるため、次の発問を試みた。

### <発問>

みんなは2年間あまり英語を勉強してきました。そんな中で、普段、英語についてどんなことを感じたり、考えたりしますか。

- ・ 難しい。
- ・ 日本語と発音が違って難しい。
- ・ 日本語と文の組み立てが違って難しい。
- ・ 英語がスラスラときれいな発音でしゃべれるようになればいい。
- ・ 話せるとかっこいい。
- ・ 外国に行って、英語が通じたらうれしいと思う。
- ・ パソコンやいろいろなところで英語がたくさん使われているから、わかると絶対に役立つ。
- ・ テレビなどの英語が少しわかるようになってきた。
- ・ 旅行をすると役に立つだろうな。
- ・ 外国の人と話せるくらい上達したい。

「難しい」と感じながらも、「話せるようになりたい」、「将来役に立つ」と言うような肯定的な意見が多かった。

この生徒たちの約7割が英語検定を受検した経験がある。そこで「日本語能力試験」を受検するにあたって次のような説明を試みた。

### <説明>

みんなは英語を勉強しているのですが、その実力を試す場として「英語検定」がありますね。外国の人たちの中には、日本で仕事をするため、日本で留学するため、また日本や

日本語に興味があるために日本語を勉強している人たちがいます。そういった日本語を母国語としない人たちを対象とした「日本語能力試験」という検定試験があります。昨年度は国内外あわせて36の国と地域で約23万5千人の人たちがこの試験を受けました。

「23万5千人」という数字に「そんなにたくさん!」、「たったそれだけ!」など、多い、少ない、のとらえ方は生徒によってさまざまであった。「先生、それって難しいの?」、「日本人には簡単なの?」など関心を寄せる質問があがった。

<説明>

今日は「日本語能力試験」1級の問題をいくつかやってみます。英語検定では1級が一番高いレベルです。この試験も1級から4級まであり、1級が一番高いレベルです。

このように説明をしたあと、1級の抜粋問題を行った。

「文字・語彙」、「聴解」、「読解・文法」それぞれを含んだ問題65問を、25分間で行った。

生徒たちは真剣なまなざしで取り組んだ。普段のテストではどちらかという投げ出すような生徒も、このときは最後まであきらめることなく、熱心に考えていた。

試験終了の合図を出すと、「難しい!」、「これはやばいぞ!」などの声があちらこちらからあがった。

問題の例

空所に適語を選ぶ問題

この辞書は、今いちばん\_\_\_\_\_がある日本の辞書と言われている。  
1 威力    2 迫力    3 権威    4 権限

先生に\_\_\_\_\_、ますますお元気にご活躍のことと存じます。  
1 おかれましては    2 なさいましては  
3 なられましては    4 つかれましては

「平成12年度 日本語能力試験 1・2級 試験問題と正解」(凡人社)

正答率の結果は次の通りであった。

文字・語彙 = 86%    聴解 = 88%    読解・文法 = 73%    総合 = 82%

普段行っている各教科のテストがこのような正答率であると、生徒たちは概ね満足するであろう。ところがこのテストにおいては、この結果に満足しない生徒がほとんどであった。

生徒たちの感想

- ・ 日本人なのに、日本語がよくわかってないような気がする。
- ・ いつも日本語を話しているから簡単だと思ったけど、やってみると難しかった。
- ・ 日本語は奥が深いと思った。
- ・ 私たちは日頃、間違った日本語を話していたのかも知れない。
- ・ 日本人にも難しい文とかあってびっくり。これ下手すると、外国の人の方が日本語が上手になるかも知れない。
- ・ 言葉の使い方がまだまだだと思った。
- ・ 私は丁寧語の使い方がわかってないな、と思いました。

- ・ 難しかった。日本人の僕でも分からないところがあったのでちょっとショックだった。
- ・ 結構難しかった。日本語は漢字があるから難しいのだろうか。
- ・ 日本人が社会に出て使うような言葉がだいたい問題になっていた。外国人は日本語を勉強する時、こういったことを学んでいるのだな。
- ・ 実際にやってみて分からないところもたくさんあった。日本人としてそれは恥ずかしいことだな、と思った。日本人なのに外国人より日本語がうまくないというのは避けたいところ。

## まとめ

この2時間の授業を通し、生徒たちは身近な身のまわり、自分自身、に目を向ける一助になったことと思う。21世紀を担う中学生たちに、これからは外国から学ぶだけの一方通行的な付き合い方ではなく、こちらから大切なものを伝えるという発信的であり、かつ相手から素直に何でも学ぶ双方向的な付き合い方をしてもらいたい。